



ナス科

たかおほろし

Solanum nipponense Makino var. takaoyamense Makino (= S. takaoyamense Makino, S. japonense Nakai var. takaoyamense Hara)

武蔵、信濃等の山地に生ずる多年生草本で、やや蔓性を呈し、茎は長く伸長して、毛なく、葉は互生、長柄を有し、狭卵形乃至卵状披針形、下方のものは3裂し、側裂片は横出して先端は稍尖り、中央裂片の両縁に不規則な波状歯牙を有し、上方のものは3裂しないが、歯牙縁を有することは同様。夏に節間の側方より総梗を出し、上向して分枝し、淡紫色の花を開く。花冠は輻状、5深裂、黄色の5雄蕊を直立して生ずる。漿果は橢円形で赤熟する。武州高尾山で発見されたのでこの名を命じた。

第 3336 図



ナス科

とげなす

Solanum echinatum L.

南米原産の1年生草本。本邦にて稀に栽培されることがある。高さ30-50cmに達し、茎は固く、長さ10cm以上の狭卵形の羽状複葉を互生し、小葉は更に羽裂する。全株葉の中肋、脈上に褐色の硬刺を生ずる。夏季に枝端の側方より花枝を出して数花を開く。花冠は淡紫色を呈し、合弁で浅く5裂し、輻状をなし、径およそ2cm許、中心より黄色5雄蕊を直立して生じ、その間より1花柱を少しく超出する。漿果は固く、径1.5cm許、硬刺ある宿存萼に包まれる。

わるなすび

一名 おになすび、のはらなすび

Solanum carolinense L.

第 3337 図



ナス科

近年都会地附近に帰化した歐洲原産の多年生草本で、高さ30-50cmに達し、茎には黄色の鋭刺と星毛があり、多少之字形に屈曲して、葉を互生し、地下に径3mm許白色の茎を長く引いて繁殖する。葉は橢円状卵形、先端は尖り、基部は広楔形、縁辺の左右は2-3羽状に浅裂し、両面は星毛多く、下面の中肋上に数刺を直立して生ずる。初夏に節間から花序を横出して、白又は淡紫色、径2-3cmの花を下向して数個開く。萼片は5個、披針形鋭頭、星毛があり、花冠は輻状5裂、雄蕊5個、雌蕊1個があり、花柱は直立し、雄蕊より長い。漿果は球形、萼を宿存し、黄色で、やや光沢があり、球形、径1.5cm許、下向する。和名ワルナスビは悪者のナスビの意で、刺があり、繁殖力が強くて、仕末のわるい雑草であることに由る。

あおほおずき

Physalium Savatieri Makino

山地の林下に生ずる多年生草本。地下に短い根茎があり、茎は疎に分岐して高さ30-40cmに達し、やや軟弱で散毛がある。葉は互生、通常茎に双生し質は軟かで、長楕円形又は卵状楕円形、両端鋭尖、短柄あり、軟毛が散生する。6月頃葉腋より1花を垂下して開き、萼は広盃形、有毛、5低歯がある。花冠は淡緑色、鐘形で、先端5浅裂内面基部有毛、5雄蕊、1雌蕊があり、花糸は開出毛を有し花柱は細く、柱頭は2岐する。果実は長楕円形で長さ1cm許、花後増大する有刺の萼筒により殆んど完全に包まれる。



ナス科

ひよす

Hyoscyamus niger L.

歐洲原産の2年生草本。瞳孔拡大剤アトロピンを得るため時に栽培される。全株に短毛及び腺毛を生じて粘り、高さ1m内外、疎に分枝し、葉は互生、下方の葉は有柄広卵形波状縁、上方の葉は無柄、羽状に浅裂して少数の大鋸歯を具え、主脈は白く太い。初夏上方の葉の腋から多少偏側して広鐘状の花を順次開く。花は径2cm許、花冠は5裂し、裂片は円く、淡黄色、淡紫色の紋脈があり、中心部は紫色を呈する。萼は壺形、先端はやや開いて5歯をなし、花後増大して長さ3cm、巾2cm許に達する。花中1雌蕊、5雄蕊がある。

第 3339 図



ナス科

ばんまつり

Brunfelsia Hopeana Benth.

南米ブラジル原産の小灌木で、現今は熱帯に広く栽培され、我国では温室等で観賞される。高さ1-2m、分枝多く、枝条は細く、葉は革質、披針状長楕円形、全縁、多少波状を呈し、平滑無毛、濃オリーブ緑色、上面に光沢があつて、互生し、長さ数cm、葉柄は短かく、初夏の頃枝頭に1-2花を開く。花は濃紫色、黄心、漸次褪色して淡紫色となる。萼は筒状で先端に5歯あり、花冠は高盆状、径4cm、裂片は円く周縁は多少波状を呈して互に少し重なり、喉部黄色、筒部は淡紫色、少しく膨大して彎曲する。4雄蕊は花筒の上部に合着し、葯は濃紫色。和名は蕃茉莉で、舶載のジャスミンの意を表わす。

第 3340 図



ナス科